第 2017-14 号

恵みと真理のニュース

2017 年 4 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 神様は重い病気を癒してくださり、全ての家族が神様を畏れ愛する福ある人生を生きるようにしてくださいました

私が5歳の時に父親が亡くなって母の下で4歳の下の妹と共に育てられました。母は私が生まれる前から熱心にイエス様を信じて仕えました。母は一人で家計の責任して豊かではなかったですが、神様を信じ委ねながら疲れも表せなくていつも明るい表情で生活しました。そんな母をついて私達も子供の時から教会に通いました。

私は教会を休まずに通い、聖歌隊でも熱心に奉仕をしました。しかし、青年の頃は神様に対する熱い愛より教会の友達と交際するのが好きで教会を通ったようです。そんな信仰の状態で今の旦那に出会って結婚しました。旦那は六人の兄弟の中で長男として保守的な性格を持っていました。結婚した後も教会を通いながらもケンカをしないように祭祀と農業と家事をしながら自分の役割に最善を尽くしました。

1997年アンヤンで引っ越しして知り合った区域長に導かれて恵みと真理教会の聖徒になりました。初めは教会の全てがなれなかったですが、続けて礼拝に参席して熱心に聖書勉強をしながら適応をし神様に対する信仰と愛が深くなりました。水曜1部の礼拝の聖歌隊で奉仕しながら区域長の職分も受けました。聖歌隊で賛美する時間が真に幸せでした。区域長の職分を担えるため神様に祈って区域の首区域長と真実な聖歌隊の執事達の信仰を見習うため努力しました。

2014年11月健康診断を受けて大腸癌3期判定を受けました。当時、私より旦那が大きく衝撃を受けました。初めはとても驚いて信じられなくて落胆しました。しかし、神様がくださる勇気と力を得て治る希望で充満になりました。30年間旦那の救いのため祈ってもいくら主に対する心が開かなかった旦那の心が私の痛みを通して開き始めました。首区域長の夫婦が私の家に来て神様に礼拝を捧げて私の病気が癒されるように祈ってくださるときに旦那も彼らと切に神様に祈って賛美しました。そして、子供達と共に教会に来て私のため祈るようになり、イエス様を自分の救い主として受け入れました。

私は永遠な天国を受けた神様の子供であり、そんな私と神様が共におられ助けてくださる事実を通して教会で牧師と多くの聖徒達が祈ってくださっているので手術をする前に心が平安でした。聖歌隊で奉仕部長になって委員で一年間奉仕してから病院に入院しましたが、全ての委員達が聖書の御言葉と祈りをメールで送ってくださって慰めと力になりました。それだけでなくすべての聖歌隊員と聖徒達が私のため切に祈ってくださって本当に感謝限りです。大変な手術をよく耐えました。しかし、12回の抗がん剤を打たなければいけないと聞かれたとき怖くて恐れました。"何も心配しなくて祈りなさい。”とおっしゃった通り主だけを仰ぎながら周りの人々に祈りを頼みました。二週間の一回ずつ二泊三日間抗がん剤の 打たなければいけない状況でした。どころが、6回目で抗がん剤を打つ日に病院で手術をした周りに黒いものが発見されＣＴ撮影のしようとして帰らせました。その話を聞いてもし癌の細胞が他の所に移ったのではないか恐れました。鏡で私の姿を見る瞬間とても怖くて大きい声を出した泣きました。そうして、考えを整理して聖歌隊の委員達に祈りを頼みました。すると、多くの方々が祈ってくださって、聖書の御言葉を送ってくださいました。"彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ／彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。”（イザヤ書53：5）という御言葉を読む瞬間、その場で大きく泣きました。私のためイエス様がその苦労したのを感謝と愛を考えながら泣きました。 神様の摂理で私の生死をすべて主に委ねて大胆になりました。そんな事があって12時まで無事に抗がん剤を打ちました。抗がん剤を打ちながら聖歌隊で喜びで主を賛美しました。闘病過程で私の信仰が堅くなりそんな私に神様は勝つ力も与えてくださいました。

私は教会で一緒に座って説教を聴き祈って賛美する他の家族を見るのが とても羨ましがられました。それで、家庭の福音化を願いながら希望の中で心を尽くして祈りました。私の痛みを通して希望が成し遂げられました。神様は信仰が深い娘から大きく慰められました。そして信仰が弱かった息子に神様が信仰を与えてくださいました。礼拝時間に当会長牧師が神癒の祈りと祝福祈りをする時は娘は私のお腹と息子は腰に手を当てて一つの心になってアーメンとしました。その時ことに痛みも感じなくて幸せでした。何よりも病気を通して旦那がイエス様の前に進み、今も主日の礼拝を捧げ、神様を畏れる福ある人生を生きています。

私は6ヶ月に一回ずつ病院にいて健康診断を受けても異常がないほど以前の健康を回復して喜びと感謝で神様に礼拝して聖歌隊でもっと熱心に奉仕し首区域長を担えています。

" あなたの定めを見てわたしは悟ります。それがいにしえからのものであり／あなたによってとこしえに立てられたのだ、と。”（詩編119：71）この御言葉が私の体験による信仰告白であり証になってくださった神様に感謝と賛美を捧げ全ての栄光を神様に捧げます。

［信仰コラム］ 父なる神を信ず

" 我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず... "（使徒信条）

全ての教会と全ての礼拝でそうであるわけではありませんが、聖徒達が集まって礼拝を捧げる時に大体、使徒信条を諳じます。使徒信条を諳じるのが教会の伝統の中で一つであるのはそうする必要があり有益があるからです。使徒信条は聖書に記録された福音の本質的な真理を簡潔に圧縮しておきました。使徒信条は " 私は神様を信じます。 " という告白から始まります。使徒信条の始めを見てみると " 我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず " として " 全能の " " 天地の造り主 " " 父なる " という用語が羅列されています。この用語を分けてみます。

まず、" 全能の神様 " という部分を調べてみます。

アブラハムが 99 歳になった時、神様がアブラハムに表れて " わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ " と言われました。出エジプト記 6 章を見ると神様がモーセに " わたしは主である。わたしはアブラハム、イサク、ヤコブには全能の神として現れたが、" （出エジプト記 6:2、3）と言われました。神様は全能でおられるのでご自分の意志通りに全てのことを行われることができます。従って、私達が何でも神様の求めることができます。皆さんは使徒信条を諳じながら " 全能な神様を私が信じます。 " と告げます。これは " 神様は何でも可能でおられますので私は躊躇わずに何でも大胆に求めて神様に頼ります。 " という信仰を告白することです。

次は、" 天地の造り主である神様 " という部分を調べてみます。

' エホバ ' という名前は聖書に出る神様の固有な御名であります。神様がモーセにイスラエル子孫達をエジプトから導いて彼らの祖先に言約なさったカナンの地に導く使命を下す時に " わたしは、有って有る者。 " " イスラエルの人々にこう言いなさい『あなたがたの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主が、わたしをあなたがたのところへつかわされました』と。これは永遠にわたしの名、これは世々のわたしの呼び名である。 " と言われました。（出エジプト記 3:14、15） " 有って有る者 " という名は神様の自存性、永遠性、絶対性、唯一性を意味します。 " わたしは、有って有る者。 " というお言葉には創造主神様に対して全ての被造物は依存的な存在であることを啓示してくれます。従って、私達人生は神様に完全に頼って生きていく時、その存在の誠な意味を持つようになります。皆さんは使徒信条を諳じながら " 天地の造り主である神様を私が信じます。 " と告げます。これは " 自存でおられ永遠で、絶対者であり唯一な神様が万有を造りなさって治められる手で私を手伝ってくださるのを信じます。 " という信仰を告白するのです。

その次は、" 父なる神様 " という部分を調べてみます。

父なる神様という呼称には愛と恵みが限りなく溢れます。イエス様は私達に神様を父親と呼ぶように教えられました。そして私達が必要なことを " 天にいますあなたがたの父 " に求めるよう言われました。（マタイによる福音書 7:7～11）皆さんは使徒信条を諳じながら " 父なる神様を私が信じます。 " と告げます。これは " 父なる神様が私の求めを聞かれ最も良いことで応答してくださることを信じます。 " という信仰を告白するのです。

" 我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず " という信仰告白には三つの意味があります。第一、" 何でもご自分の意志通りに叶えることができる全能な神様を私が信じます。 " という意味があります。第二、" ないことから万有があるうようになさった創造主である神様を私が信じます。 " という意味があります。第三、" 子供の求めをお聞きなさい、良いことで応答してくださる父なる神様を私が信じます。 " という意味があります。極めて福があり尊い内容が含められた信仰告白です。皆さんは使徒信条を諳じるたびにこのような知識と信仰を持つようになったことに対する喜びと幸福感を持って諳じてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

柔和な人

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

イエス様の山上のお言葉の中で今まで私たちは‘心が貧しい人’と ‘悲しんでいる人’に関するお言葉をよく見ました。 今日は “柔和な人たちは、さいわいである、彼らは地を受けつぐであろう。”というお言葉をよく見ます。

第一、人間関係で柔和な人がさいわいがあります。

柔和であると言うのは他人との関係で柔らかくて寛大で自制力がある性分を言います。 柔和な人は他人が自分と性格が違うことがあるのを認めます。 相手先に完全を要求しないし不足と軟弱を受け入れます。
家庭で柔和な人が家にいると人の暖かいいきれがただよわせるが心が硬く人は寒風が吹くらせます。 性格が過激で心が硬く人は社会で孤独です。 彼が高い地位にあって多くの人が彼の周囲に来っても真正な心で身近に近付く人がいないです。 心が硬く人は心に弾力がないからストレスを手におえることができなくて精神的に肉体的に破綻に至る場合があります。 一方に柔和な人は心に弾力があるからストレスをよく治めます。 心が硬く性質は楢柏のようで柔和な性質は竹のようです。 楢柏はきめが強くて風が吹きによってしなわないがひどい暴風が吹いて来れば折れます。竹は柔軟で風吹きよってしなうが暴風がひどく吹いて来ても折られないです。
人が心の硬くするように行えばストレスがたまってしばしば長時間に緊張状態に置かれるようになるので副腎と甲状腺が正常以上の多量のホルモンを頻繁に分泌するようになって肉体の健康に大きな問題が発生します。 緊張、怒り、懸念、恐れ、挫折感などの情緒上の混乱が精神と肉体に大きい打撃を与えて悪い結果をもたらすということはこれからは常識化された知識です。 柔和な性分を持てばこんな問題が発生しないです。 聖書は人が怒ることをつつしむようにしました。 “愛する兄弟たちよ。このことを知っておきなさい。人はすべて、聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくあるべきである。 人の怒りは、神の義を全うするものではないからである。”(ヤコブの手紙 1:19,20) しました。 ただ 怒るのが許諾された場合があります。
モセの例をあげます。 モセが神様の呼びかけを受けて市内山の上に上がってから多くの日になりました。 山の下の民はモセを待つことをあきらめてアロンに私たちを導く神を作りなさいと不当に強要しました。 脅迫的な群衆デモにこわがったアロンは民が提供した金で子牛の形状を作りました。 志を果たした民は子牛の形状の前にお供えを捧げて歌いながら踊りました。 神様はモセに山の下におりなさいとおっしゃりながら民が腐敗したので所滅すると言いました。 モセの手には神様が直接作って十戒命を記録した二つの石の版がありました。
民に身近に下ったモセは民が子牛の形状の前で歌と踊ることを見て怒りました。 モセの怒りは極まって彼の手に持った石版を山の下に投げて破りました。
神様はモセのこのような行為に対して叱らなくてまた新しい石の版をくださいました。 神様はこのように聖なる怒りは禁じないです。 不法と不意に対して感じる怒りの感情は公義と真実という神様の属性に適当なことであるからです。 しかし普通の 人間関係では心が硬くならないようにして柔和な心を維持するように力をつくさなければなりません。
詩編 37 編に記録されるのを “悪を行う者は断ち滅ぼされ、主を待ち望む者は国を継ぐからである。悪しき者はただしばらくで、うせ去る。あなたは彼の所をつぶさに尋ねても彼はいない。しかし柔和な者は国を継ぎ、豊かな繁栄をたのしむことができる。”(詩編 37:9-11) しました。 このお言葉は不変の真理です。 家廷生活、社会生活で柔和な者が微弱にあるいは力無く見えることもできるが実際は自制力が強くて賢い人です。 柔和な心と態度に生きて行く人はこの地で神様が下さるさいわいを享受して平安を楽しむようになります。

第二、神様との関係で柔和な人がさいわいがあります。

柔和であるというお話の意味を誤れるように解釈してはいけないです。 柔和であるというお話を “優柔不断だ、弱気だ、無気力だ。”との意味と思って他人から柔和であるというお話をきくことを有り難がらない人がいます。 これは柔和の意味を誤解したのです。 聖書に記録された柔和はヘルラ語で ‘プラウス’なのによく手懐けられた動物に適用される単語です。
神様との関係で柔和な人と言うのは神様の治めるに自分を完全に任せて従順する人を言います。
聖書にある人物の中で神様がどんな人を特別に指定して柔和であると誉めた人がいます。 民数記 12 章 3 節に見ると “モーセはその人となり柔和なこと、地上のすべての人にまさっていた。”(民数記 12:3)と神様がおっしゃいました。 モセの柔和な姿は聖書多くの所で見られます。 その中で一番劇的な事件を通じて神様との関係でモセの柔和さに対して調べます。
イスラエル子孫がエジプトから解放されてガナアン地を向けて行進した中に起こった事です。
暴悪なパロの苛政によって奴隷のように扱き使われている途中自由を得て解放された彼らの喜びは言葉で言えることができなかったです。
老若男女までもなく皆が乳と蜂蜜が流れるガナアンに対する希望に一杯であった胸を抱いて力強く足を移しました。 モセは自分が分かっている道にイスラエル民を導きました。 ところで進行する中に神様が雲の柱と火の柱を送って彼らの道を導きました。 イスラエル民が紅海の前に到着しました。 これ以上は進むことができないのでその所に帳幕を張りました。
イスラエル民が道を誤って行って荒野に閉じこめられるようになったという報告をきいたエジプト王と臣下は心が変わってイスラエル民をまた捕らえるために追撃しました。 前は海です、一方は岩だらけの丘であり、また一方はエジプトの守備隊です、後はエジプト軍隊でした。
痛しかゆしの困境に処したイスラエル民は神様とモセに向けて恨んで不平を言いました。 するとモセがこんなに叫びました。
“モーセは民に言った、「あなたがたは恐れてはならない。かたく立って、主が きょう、あなたがたのためになされる救を見なさい。きょう、あなたがたはエジプトびとを見るが、もはや永久に、二度と彼らを見ないであろう。主があなたがたのために戦われるから、あなたがたは黙していなさい」。”(出エジプト記 14:13,14). イスラエル民が当面したことと同じ患難は神様の引導に付いて生きて行く中にある患難です。 こんなの時に “私はあなたが思う方法ではない他の方法で働く。” という神様のメッセージで理解しなければなりません。
モセがイスラエル子孫を安頓させて神様に祈り始めたら神様がモセに命ずるのを “あなたはつえを上げ、手を海の上にさし伸べてそれを分け、イスラエルの人々に海の中のかわいた地を行かせなさい。”(出エジプト記 14:16) としました。 モセが海の上で手を出して伸ばすと神様が大きい東風で海水を退くようになさったら水が割れて開かれた海の中に地は乾いた地になりました。 イスラエル子孫は海の中の開かれた道で渡りました。 しかし彼ら後を付いて来たエジプト軍隊は水が合されるので皆が溺れ死にしてしまいました。 これを見たイスラエル民は小太鼓を取って踊りをしながら喜びました。
モセは神様の指示どおり自分ができる仕事をしました。 これが柔和です。 このように柔和な人に神様が賞をくださいます。 手助けになります。 奇蹟を施します。神様の前で柔和な人は彼の知性と感情と意志が皆 手懐けられた人です。 自分の全存在が神様に手懐けられなければなりません。 聖書が理解されなくても神様のお言葉なので無条件信じる時これが知的柔和です。 いつも喜んで凡事に感謝するのが静的柔和です。 イエスキリストが分かって信じて救いをもらったから どんな場合にも感謝して喜びながら生きて行くことができます。 だけでなく 神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。 私たちに問題が近付いても感謝しながら生きて行くことができます。
黙黙と神様の御旨を受け入れて神様のお言葉を実践するのが意志的柔和です。 私たちが神様に手懐けられて知的に、静的に意志的に柔和であるならば神様が予備なさったさいわいをすべて享受するようになります。

私たちは 人間関係で柔和でまた神様との関係で徹底的に柔和でなければなりません。 自分の知性と感情と意志が皆聖霊とお言葉の中に手懐けられて神様の御旨と摂理と指示を全面的に信じて従順するように力をつくさなければなりません。
“柔和な人たちは、さいわいである、彼らは地を受けつぐであろう。”とイエスキリストが親しくおっしゃいました。 地を企業で受けるというお言葉はこの世の中で生きて行くのに必要なすべてのものを安定的で豊かに享受するようになるという意味です。 皆さん 皆が 人間関係で特に神様との関係でいつも柔和に行うようになるのを願いします。